

災害時に活用する簡易トイレ・携帯トイレ の現状と課題

令和8年 2月5日

経済産業省 製造産業局 生活製品課

目次

1. 災害時における簡易トイレ・携帯トイレの状況	----- 3
2. 能登半島地震におけるトイレ確保の振り返り	----- 7
3. 簡易トイレ・携帯トイレの流通製品に関する調査の報告	-----11
4. 災害時に利用した“簡易トイレ”や“携帯トイレ”に関する課題 やニーズ調査の報告	-----20
5. 課題・論点	-----29

1. 災害時に活用する簡易トイレ・携帯トイレについて

2. 能登半島地震におけるトイレ確保の振り返り

3. “簡易トイレ”や“携帯トイレ”の流通製品に関する調査の報告

4. 災害時に利用した“簡易トイレ”や“携帯トイレ”に関する課題やニーズ調査の報告

5. 課題・論点

災害時における携帯トイレ・簡易トイレの位置づけ

- 上下水道等が被災し水洗トイレが利用出来なくなるなどの大規模な災害発生時において、被災者のトイレ確保は重要な問題。
- 「避難所のトイレ確保ガイドライン」（内閣府）や「令和6年能登半島地震を踏まえた災害対応の在り方について（報告書）」（内閣府）では、**発災時の初動対応として携帯トイレ・簡易トイレが有効**とされており、自治体等での備蓄が推奨されている。
- 令和6年度能登半島地震における政府のプッシュ型支援では、**携帯トイレ・簡易トイレ約110万回分、仮設トイレ約840基**が提供された。
- 各自治体の携帯トイレ・仮設トイレ等の備蓄量は、必ずしも十分とは言えない状況。

	石川県内のトイレ備蓄数（令和5年3月）	令和6年能登半島地震における国のトイレ供給数
携帯トイレ	約10.8万回分	約110万回分
簡易トイレ	11,652台	
組立トイレ	便槽型203基、マンホール型228基	
仮設トイレ	662基	約840基

出所：消防庁「地方防災行政の現況」（令和5年3月）、備蓄数は石川県及び県内市町村の合計
内閣府「令和6年度能登半島地震による被害状況等について-プッシュ型支援の状況-」

災害時におけるトイレの供給について

- 内閣府の避難所におけるトイレ確保ガイドラインにおいては、時間経過に応じて以下の考え方を一例として定めているところ。
- 同ガイドラインでは、トイレ確保の考え方として、避難者50人あたり1基（長期化する場合は20人あたり1基）、トイレの平均的な使用回数を1日5回としている。

時間経過	トイレの種類	対応例
発災～3日間	携帯トイレ 簡易トイレ など	<ul style="list-style-type: none">● 支援物資が届くまでの間は、自治体が備蓄した携帯トイレ・簡易トイレを中心に使用。● 発災当初は避難者数が多いため、数量の確保が重要。
～2週間	仮設トイレ マンホールトイレ など	<ul style="list-style-type: none">● 3日目以降、仮設トイレ、マンホールトイレの整備がはじまり、2週間程度で確保。● 避難所に供給・設置されたトイレの汲み取りの調整。
～1ヶ月	仮設トイレ・快適トイレ ユニバーサルトイレ・トイレトレーラー など	<ul style="list-style-type: none">● きれいで快適なトイレのニーズに応じて、トイレトレーラー等を派遣・充実。● 上下水道等の復旧により、仮設トイレの利用数を徐々に減らすことが可能に。

出典：内閣府「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン」（平成28年4月策定、令和6年改定）

(参考) 災害時に活用するトイレについて

- 災害時に活用する簡易トイレ、携帯トイレについては、現状、明確に規格等の定義がされていないが、今般の議論を行ううえでは以下を対象とする。

簡易トイレ

簡易な便座と排泄物袋で構成され、凝固剤等を用いてし尿を固めて処理することが可能なトイレ（組立タイプ、組みあがっているタイプ、電気や熱を用いるタイプなど）



携帯トイレ

便座は付属せず、排泄物袋を既設のトイレ等に設置して、または手で排泄物袋を保持して、凝固剤等を用いてし尿を固めて処理することが可能なトイレ（便座へ取り付けタイプ、局部にあてがって利用するタイプなど）

※そのほかの災害時に活用するトイレ（仮設トイレなど）



1. 災害時に活用する簡易トイレ・携帯トイレについて

2. 能登半島地震におけるトイレ確保の振り返り

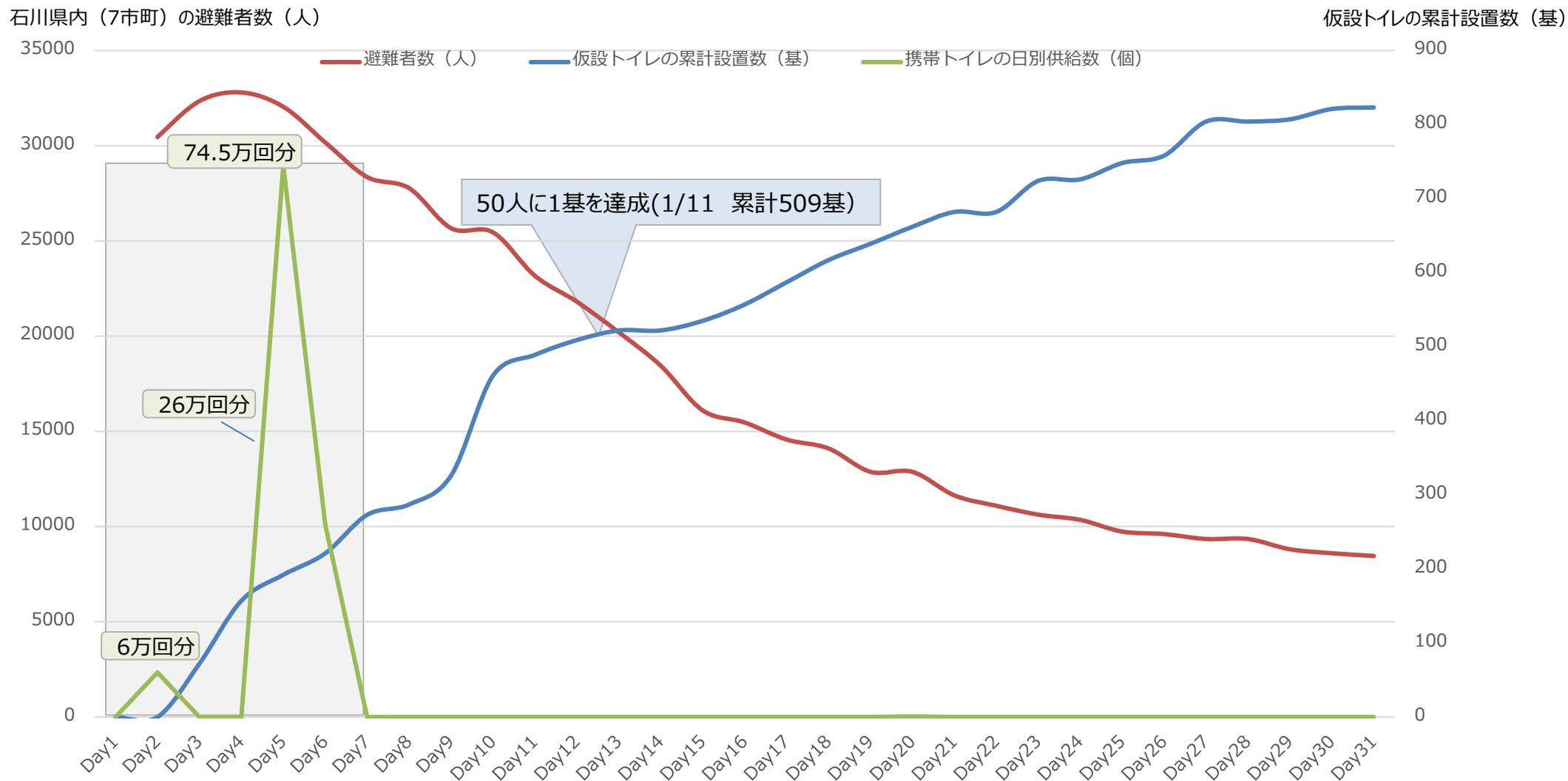
3. “簡易トイレ”や“携帯トイレ”の流通製品に関する調査の報告

4. 災害時に利用した“簡易トイレ”や“携帯トイレ”に関する課題やニーズ調査の報告

5. 課題・論点

能登半島地震における災害トイレの供給タイムライン

- 携帯トイレは発災翌日に約6万回分、6日間で約105万回分を供給。発災翌日から発送をした**仮設トイレは、天候や道路事情等により、目標(50人に1基)達成には10日程度を要した**。※国が供給したトイレ数による算定結果。



出典（避難者数）：石川県「災害対策本部員会議」

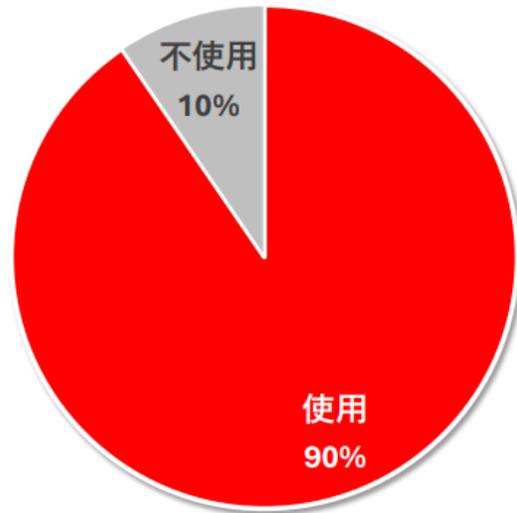
出典（推奨人数）：内閣府（防災担当）「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン」（平成28年4月）

能登半島地震における災害トイレの利用（携帯トイレ・簡易トイレ）

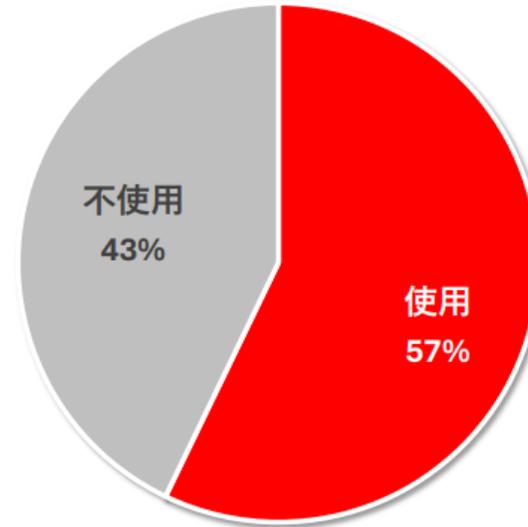
- 能登半島震災において、多くの避難所で発災直後に携帯トイレ、簡易トイレが活用されている。

輪島市内避難所12カ所、七尾市避難所9カ所計21カ所の避難所を対象

発災当初に携帯トイレを使用した避難所は90%



発災当初に簡易トイレを使用した避難所は57%



出典：令和6年能登半島地震を踏まえた災害対応検討ワーキンググループ（第4回）資料
「能登半島地震におけるトイレの課題と対策」（NPO法人日本トイレ研究所）より抜粋

能登半島地震の振り返り（携帯トイレ・簡易トイレ）

- 能登半島震災の振り返りにおいて、携帯トイレ、簡易トイレに関して、備蓄数の確保不足、使用・利用方法の周知などの課題が示された。

（現状と課題）

- 一方で、上下水道が被災した状況において、被災地外からの仮設トイレの搬入が整うまでの期間をつなぐなど、初動対応において有効な携帯トイレ・簡易トイレについては、自治体で必要量が備蓄されていなかったり、使用環境が整っていなかったり、使用方法が認知されていない等の課題がある。

（実施すべき取組）

- 初動対応において有効な携帯トイレ・簡易トイレについて、自治体において避難所等への備蓄を促進するとともに、携帯トイレや簡易トイレを使用する際に必要な照明やプライバシー、手指衛生の確保、ペーパー、ごみ袋、ごみ箱等の環境整備について考え方を示すべきである。
- 携帯トイレや簡易トイレについては、備蓄数の確保が不十分であるとともに、使用方法の周知が課題となっている。利用者側の視点に立って、快適なトイレ環境を実現し、被災者の QOL を引き上げることを目指し、スフィア基準も十分に踏まえつつ、平時においては、関係府省庁との連携、自治体への働きかけ、備蓄の推進、ガイドラインの周知等を進める必要がある。

出典：中央防災会議 防災対策実行会議 令和6年能登半島地震を踏まえた災害対応検討ワーキンググループ
「令和6年能登半島地震を踏まえた 災害対応の在り方について（報告書）」

1. 災害時に活用する簡易トイレ・携帯トイレについて
2. 能登半島地震におけるトイレ確保の振り返り
- 3. “簡易トイレ”や“携帯トイレ”の流通製品に関する調査の報告**
4. 災害時に利用した“簡易トイレ”や“携帯トイレ”に関する課題やニーズ調査の報告
5. 課題・論点

流通製品に関する調査（簡易トイレ・携帯トイレの分類・分布）

- 楽天・Amazonなどの大手ECサイト、モノタロウ・大塚商会・アスクルなどのBtoB向けECサイト、カインズ・DCMなどのホームセンター大手のネット通販におけるレビュー件数やおすすめ順等の上位製品を対象として、簡易トイレ・携帯トイレ合計約250製品を選定して性能や表示に関する調査を実施。（名称に簡易トイレ、携帯トイレが含まれる製品。）

簡易トイレ（123製品）							
処理機能 （凝固・吸水）	有						無
組立	すでに組み立てられて設置するだけのもの			自身で組み立て作業が必要なもの			-
便座の材質	樹脂/ プラスチック	段ボール	その他	樹脂/ プラスチック	段ボール	その他	-
件数 (/123)	1件	1件	2件	60件(48%) ※3件が電動	16件(13%)	4件(3%)	40件(32%)

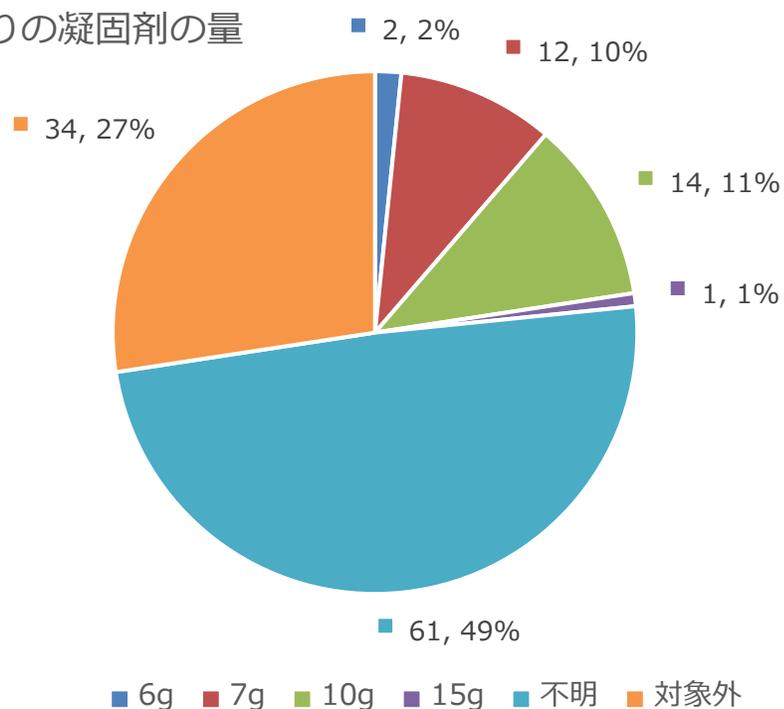
携帯トイレ（134製品）								
設置有無	有（トイレに設置して利用）					無（局部利用）		
汚物袋の有無	あり			なし		あり		
処理剤	凝固剤 タイプ(タブレット 含む)	吸水シート タイプ	その他	凝固剤 タイプ(タブレット 含む)	吸水シート タイプ	凝固剤 タイプ(タブレット 含む)	吸水シート タイプ	その他
件数 (/135)	53件 (39%)	40件 (30%)	2件	3件	1件	18件 (13%)	14 (10%)	3 (2%)

- ▶ 単体では処理能力（凝固材）の無い“簡易トイレ”が約33%存在し、このうち半数程度（〇件）が災害用途として販売されていた。
- ▶ 携帯トイレと表記しながら凝固剤のみを販売する製品も存在。

流通製品に関する調査（凝固材等の量）

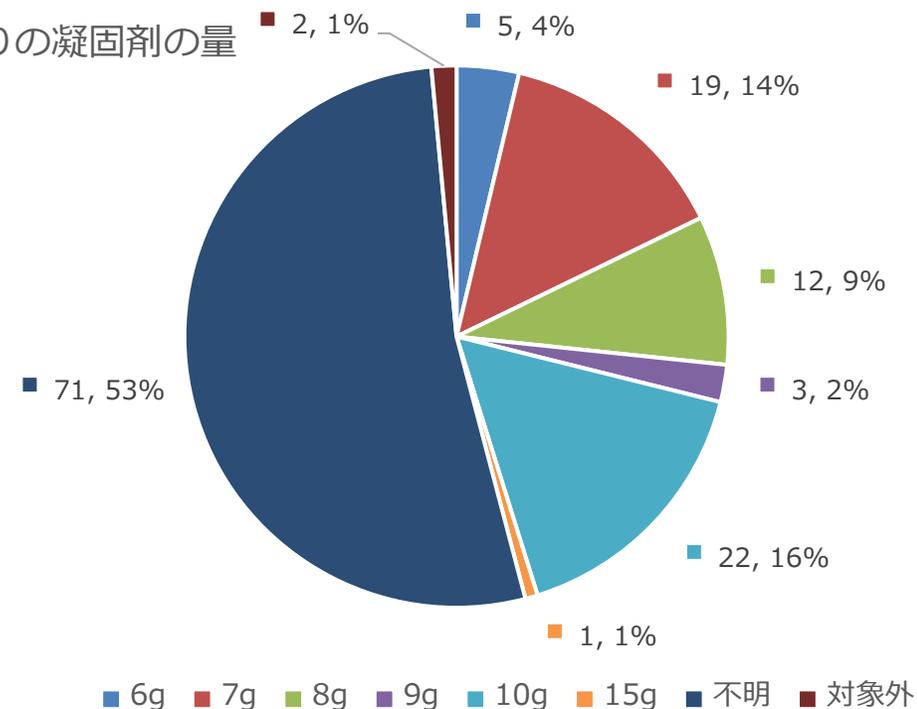
簡易トイレ

1個当たりの凝固剤の量



携帯トイレ

1個当たりの凝固剤の量

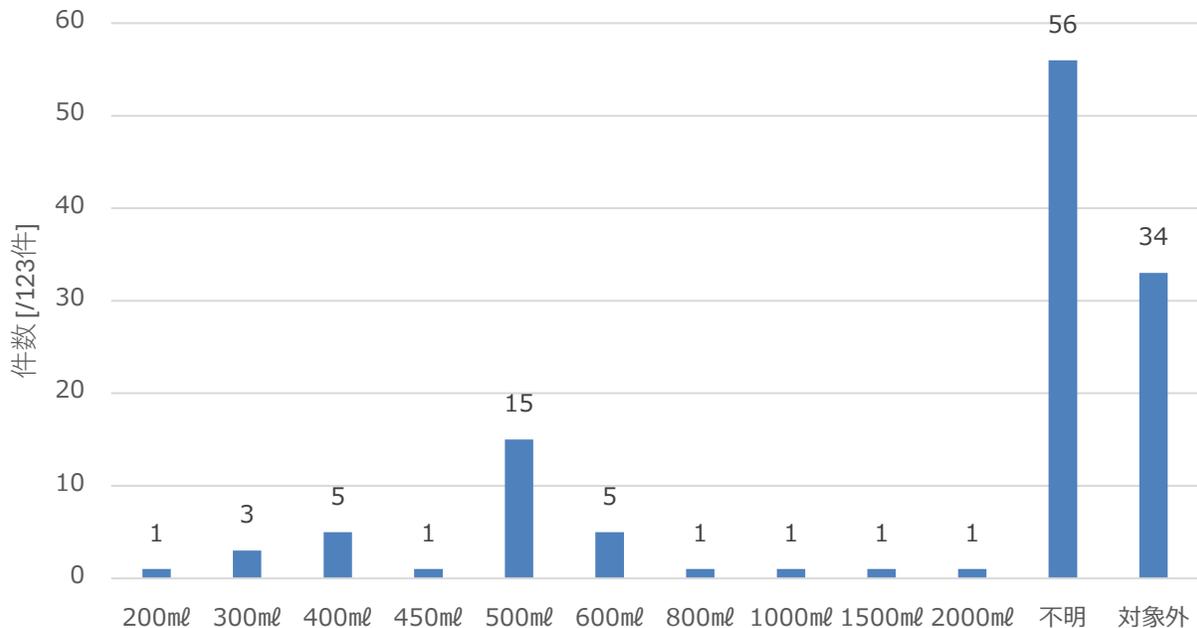


- 簡易トイレ・携帯トイレともに、市場の製品のうち、凝固剤がある製品の半数以上が凝固剤の量を表記していない。
- 凝固剤は最低8g～10gが必要との声もある中、6gや7gなどの製品も一定数存在。

流通製品に関する調査（凝固容量（吸水量））

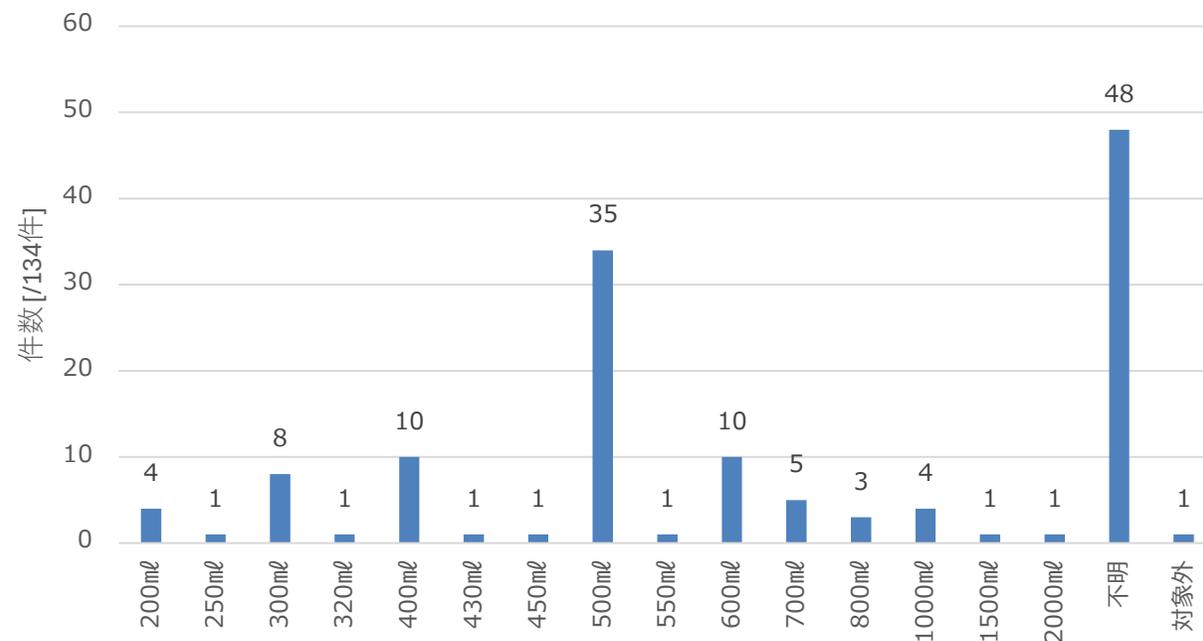
簡易トイレ

想定凝固容量



携帯トイレ

想定凝固容量

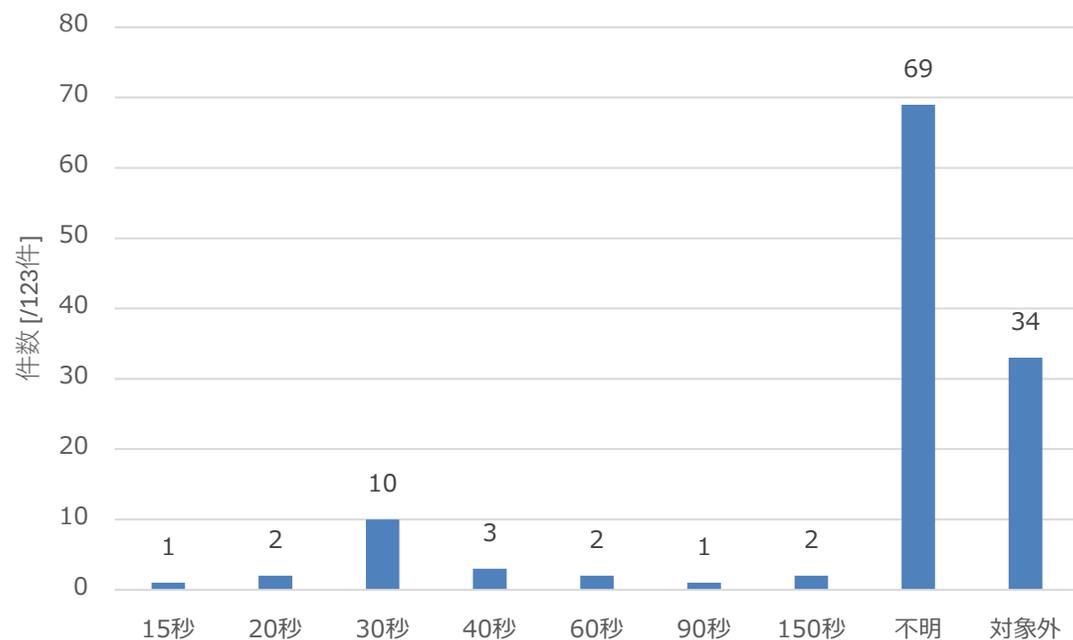


- 販売サイトにおいて記載されている凝固容量（凝固試験等を実施している場合には、試験時の凝固容量）を記載
- 簡易トイレ・携帯トイレともに、市場の製品のうち、約4割以上の製品では、想定凝固容量が不明な商品であった。
- 試験を実施している約半数は500ml以上の吸水量であったが、300mlを下回る製品も一部含まれている。

流通製品に関する調査（凝固までの時間）

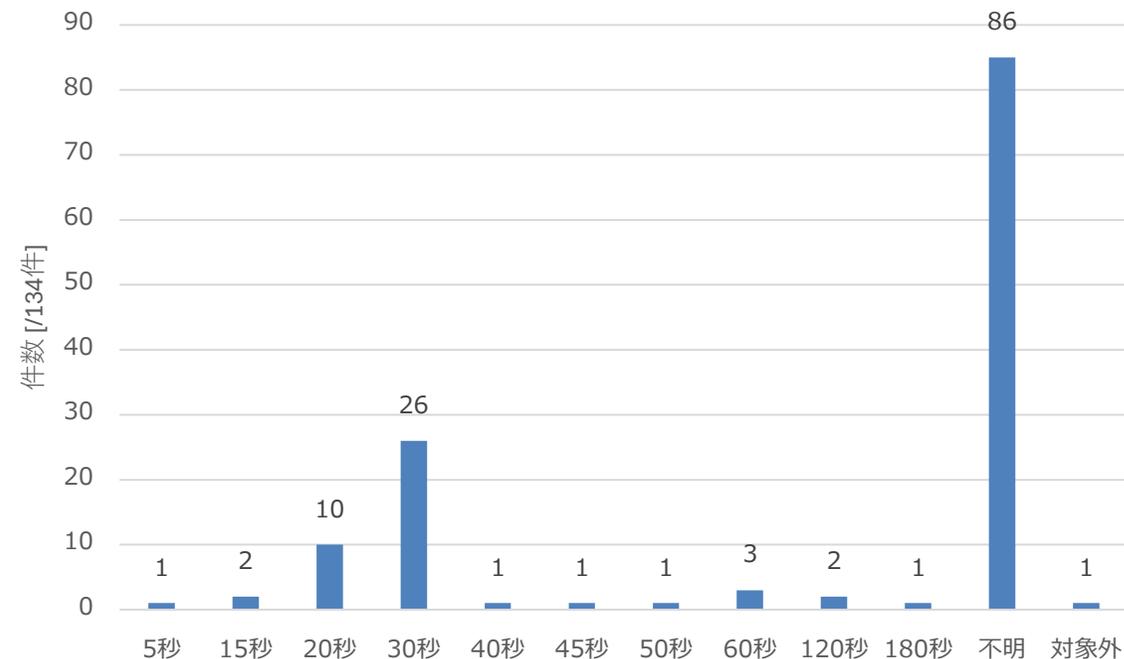
簡易トイレ

凝固するまでの時間



携帯トイレ

凝固するまでの時間

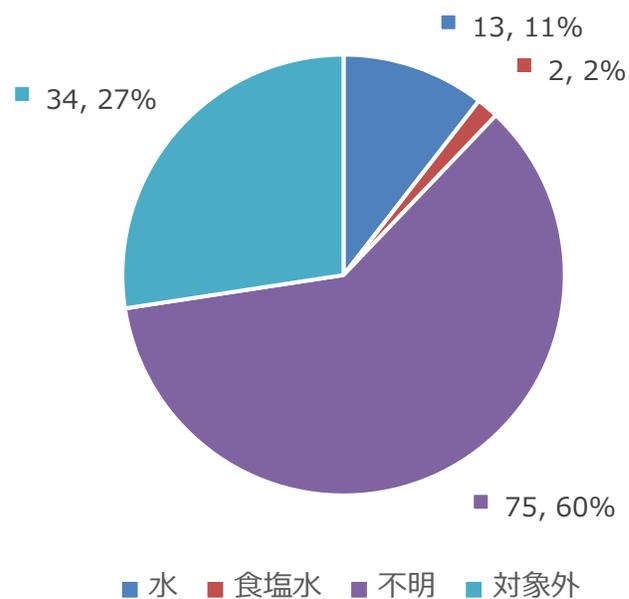


- 多くの製品で凝固するまでの時間の記載がなかった。
- 5秒から15秒という短い時間の製品もある一方、2分を超える製品も存在し、かなり差がある状況。

流通製品に関する調査（凝固試験方法）

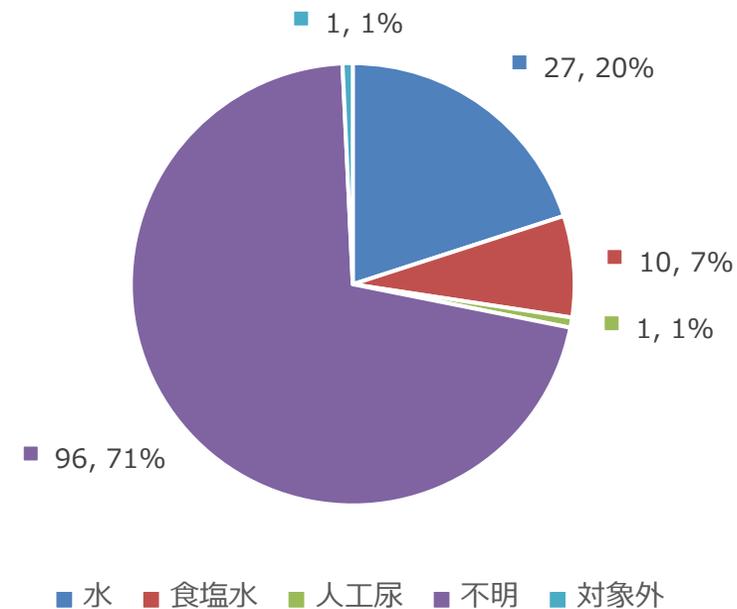
簡易トイレ

凝固試験における対象の分類



携帯トイレ

凝固試験における対象の分類

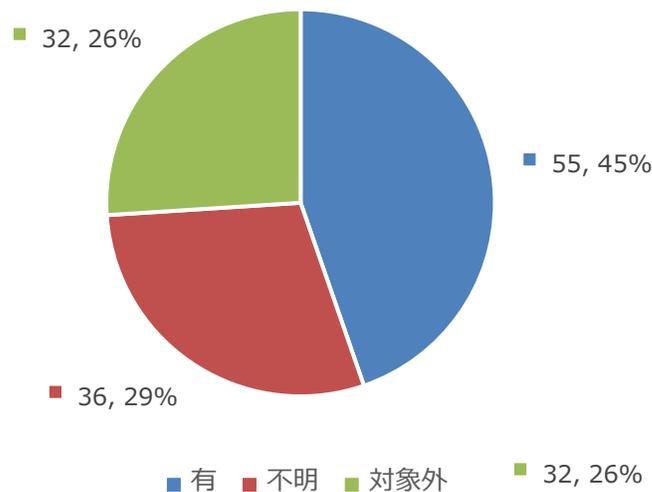


- ▶ 凝固試験を行い、その試験時における凝固対象を明記している製品は、簡易トイレで約1割、携帯トイレで約3割であり、その大半は水による試験で、人工尿、食塩水等を活用した製品はいずれも数件であった。
- ▶ また性能試験の方法やその条件なども不明である。

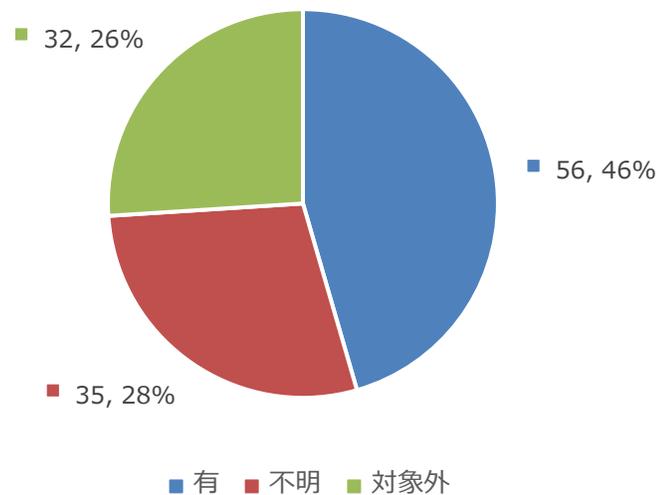
流通製品に関する調査（消臭・抗菌）

簡易トイレ

凝固剤の消臭効果

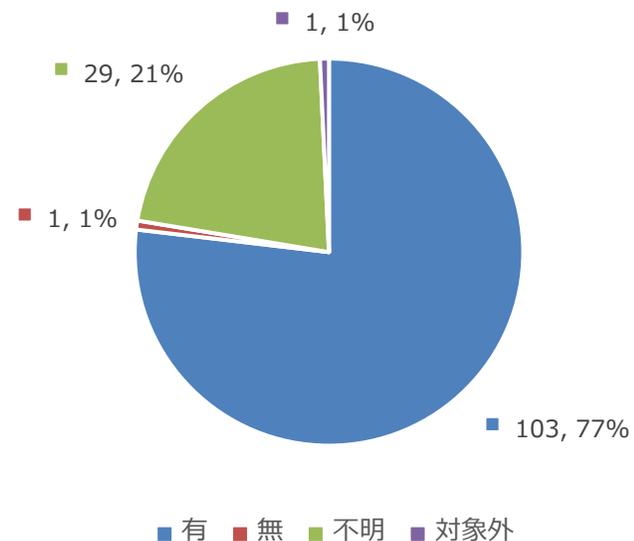


凝固剤の抗菌効果

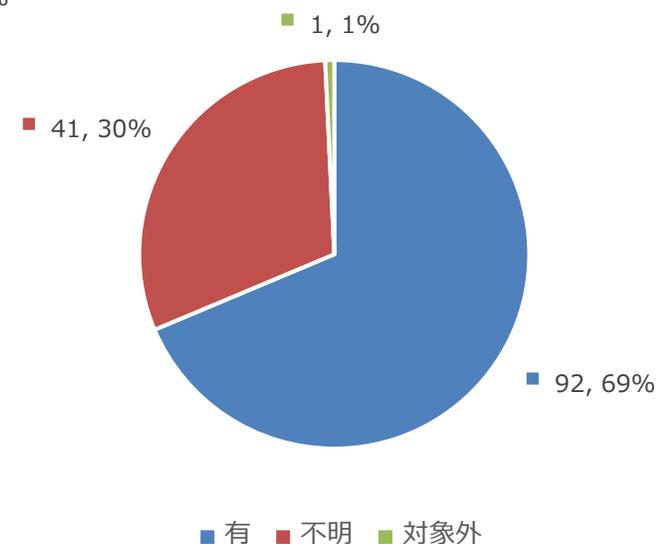


携帯トイレ

凝固剤の消臭効果



凝固剤の抗菌効果

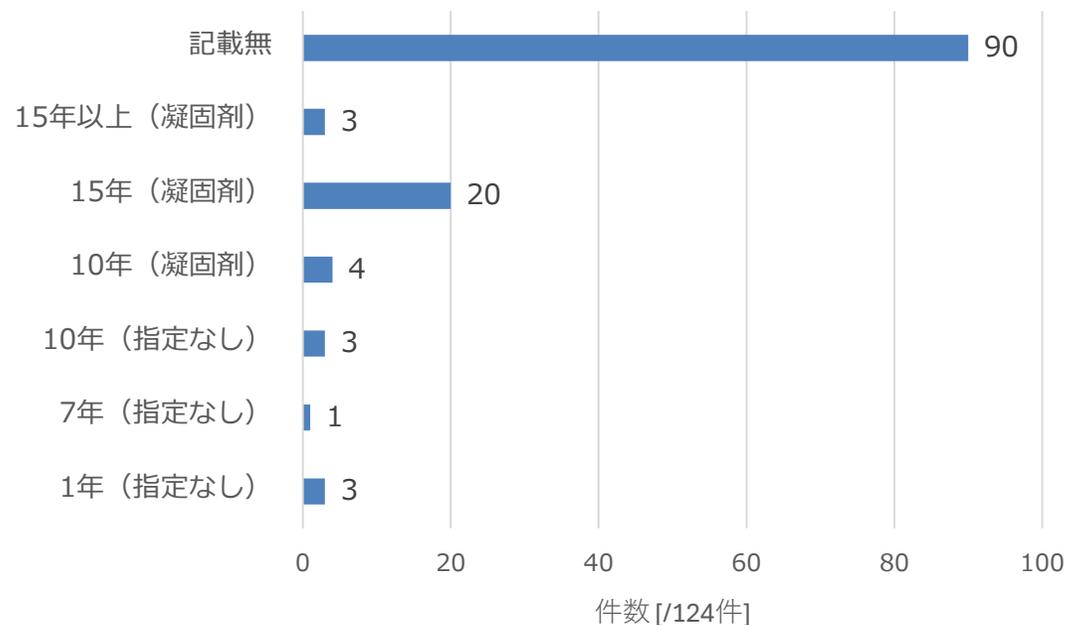


- 製品の半分程度が抗菌や消臭の機能を有している。他方で、その試験方法や具体的な性能は不明。
- 簡易トイレでは約4.5割であったのに対して、携帯トイレでは7割以上で性能を有していた。

流通製品に関する調査（保存期間）

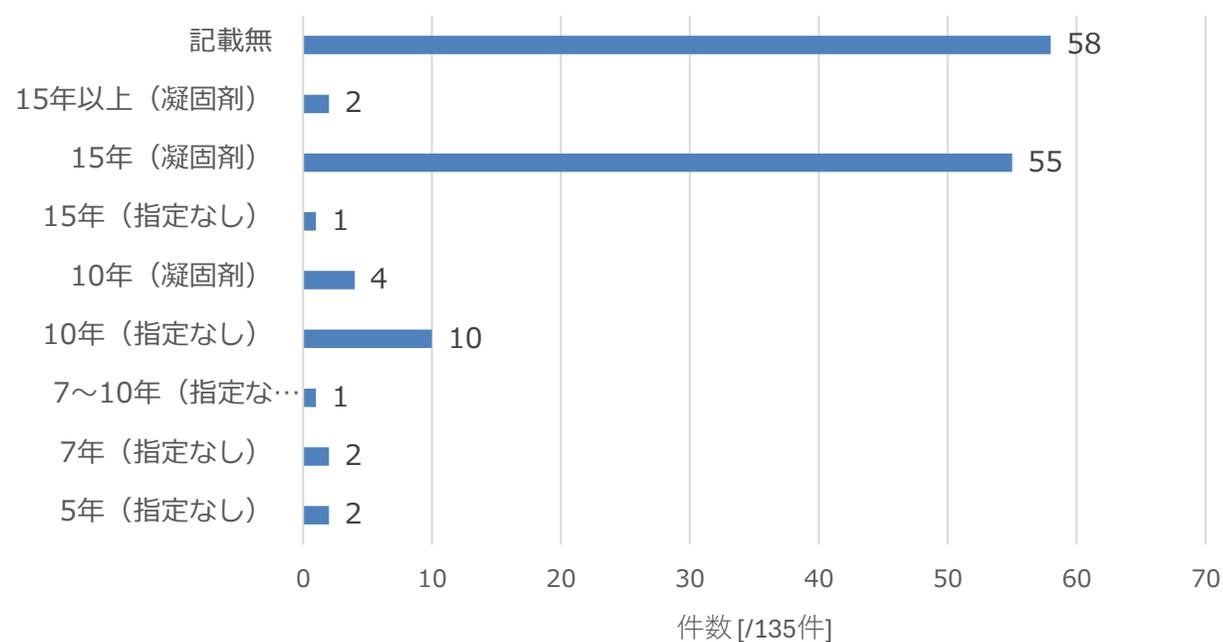
簡易トイレ

製品の保存/保管期間



携帯トイレ

製品の保存/保管期間

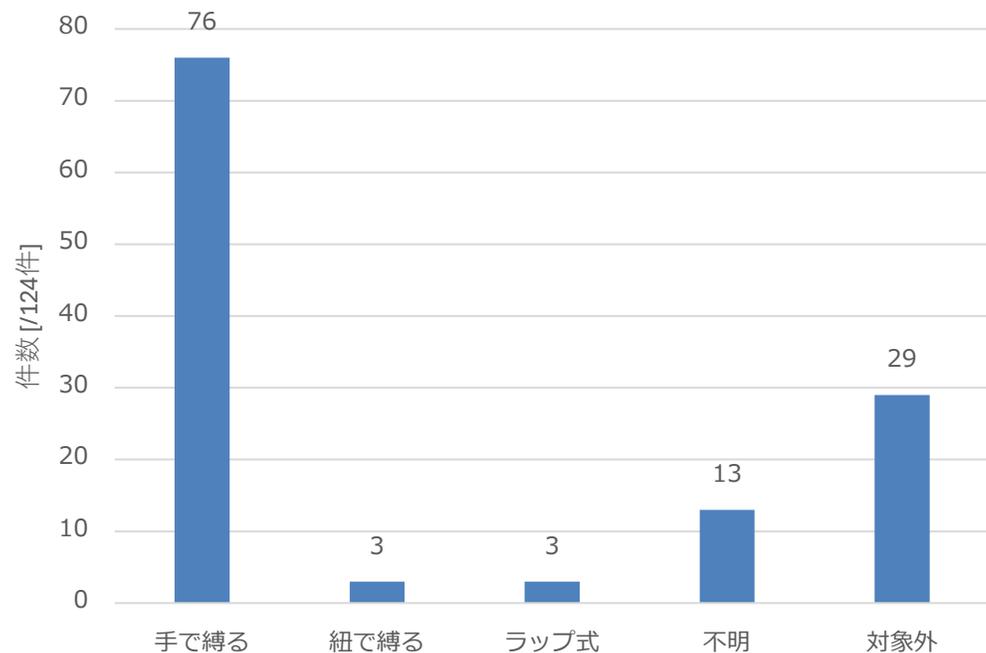


- ▶ 半数以上が保存や保管の期間の表記がなかった。
- ▶ 記載がある製品について、製品そのものと、凝固剤のみの指定があるものと2パターンが存在。
- ▶ 表記がある製品については、目安として10～15年を示す製品が多数見られた。

流通製品に関する調査（処理方法）

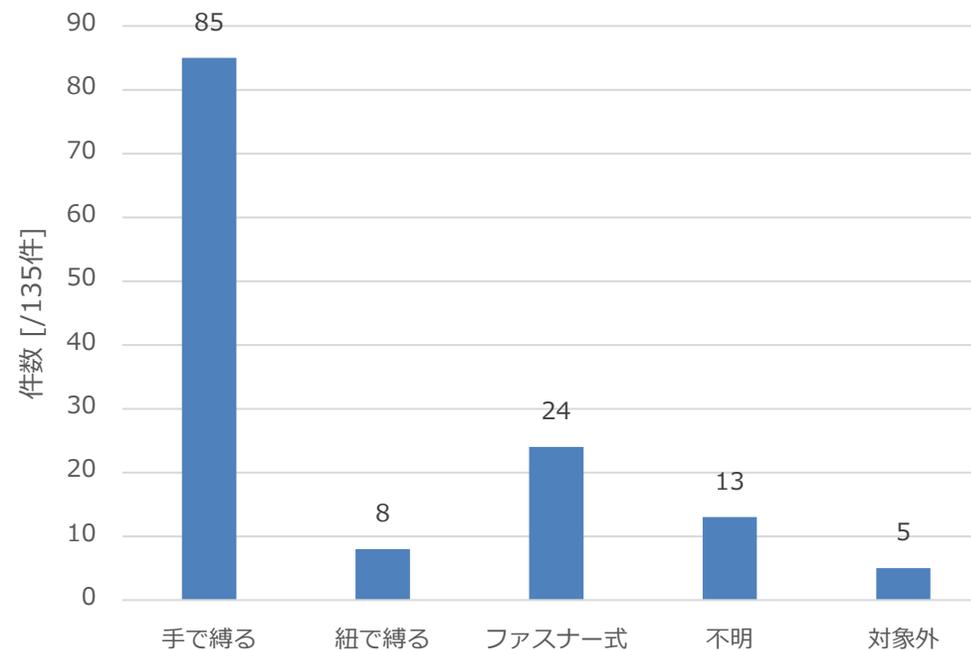
簡易トイレ

汚物袋の縛り方



携帯トイレ

汚物袋の縛り方



- ▶ 処理能力を有する製品のうち大半は手で縛る方式。
- ▶ 携帯トイレのうち局部にあてがって利用するタイプでは、ファスナー式が24件あるが、処理能力を有する製品のうち大半は手で縛る方式。

1. 災害時に活用する簡易トイレ・携帯トイレについて
2. 能登半島地震におけるトイレ確保の振り返り
3. “簡易トイレ”や“携帯トイレ”の流通製品に関する調査の報告
- 4. 災害時に利用した“簡易トイレ”や“携帯トイレ”に関する課題やニーズ調査の報告**
5. 課題・論点

ボランティア団体様/被災者様向けアンケート調査

- 災害時における“簡易トイレ”や“携帯トイレ”の課題やニーズを収集するため、能登半島地震において避難所等でのボランティア活動を行った団体を対象にアンケート調査を実施。

対象

✓ 災害時において、被災地入りし、“携帯トイレ”または“簡易トイレ”を利用したことがある。もしくは、利用した方から利用時の“声”（不平不満、意見、要望など）をお聞きしたことがある方

✓ 20団体（39名）：指定避難所（26名）、自主避難所（16名）、福祉避難所（6名）、その他（6名）
※加えて、団体を通じて能登半島地震被災者6名にもアンケートを実施。

内容

✓ ご自身の簡易トイレ、携帯トイレの利用経験

利用した簡易トイレ（携帯トイレ）の種別、使いやすさ、利用した際の衛生状態、利用方法等の周知状況を選択式で回答併せて、その理由等を記述式で回答頂いた。

✓ 現地等でのお声

見聞きした簡易トイレ（携帯トイレ）に関する内容やそれを受けての課題/問題点/改善ポイントなどを併せて記述式で回答頂いた。

設問例

使いやすさに関する設問

【1】質問：あなたが使ったことのある携帯トイレは使いやすかったですか？

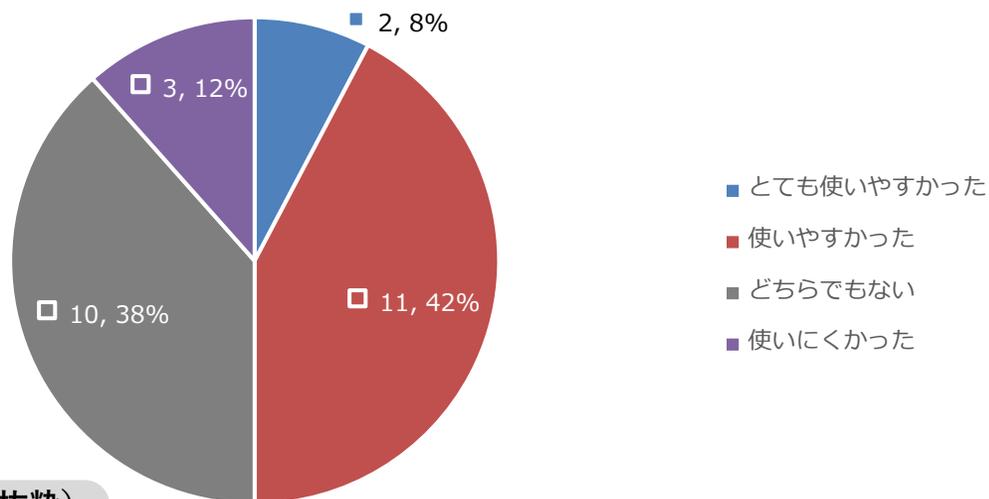
回答：（選択肢）①とても使いやすかった、②使いやすかった、③どちらでもない、④使いにくかった、⑤とても使いにくかった

【2】質問：その理由を教えてください（例：・即使用可能で待ち時間がなかった。・袋の付け替えが簡易だった。・凝固材の使い方が分かりやすい/分からない、●●により失敗しやすい、し尿が固まらなかった、すぐに固まり処分がしやすかった。）

回答：（記述式）

● アンケート結果（概略）：使いやすさ

簡易トイレ Q. あなたが使ったことのある簡易トイレは使いやすかったですか？



回答理由（抜粋）

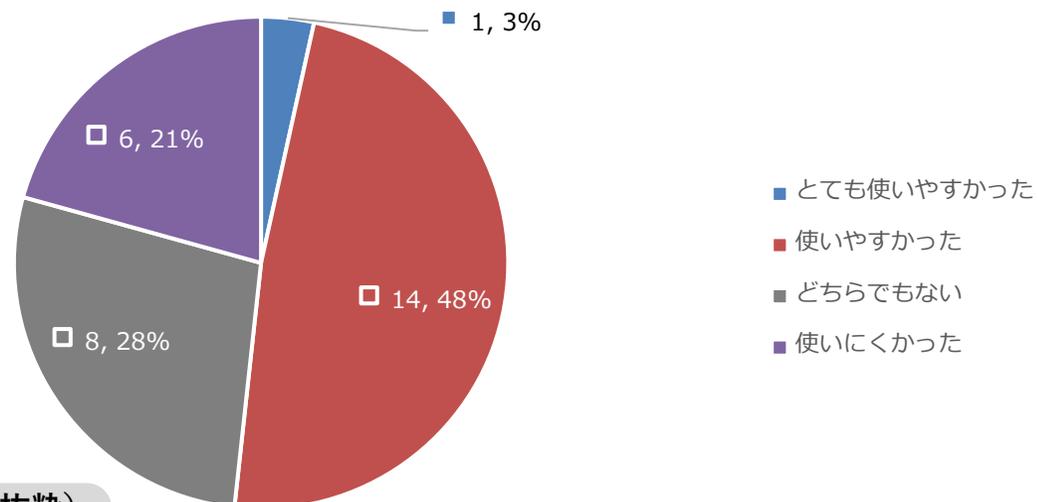
（とても使いやすかった・使いやすかった）

- ・即使用可能で待ち時間がなかった、安定感あり転倒せず安心して使えた。※組み上がっているタイプ
- ・安定感があった。※組み上がっているタイプ。
- ・熱溶着式フィルムで密閉されるため使用済みの排泄物の処理が不安なく行えた。※電動タイプ

（どちらでもない・使いにくかった）

- ・組み立てタイプの簡易トイレの中には不安定なものもある。具体的には、パイプ折り畳み式の4脚で自立するようなもの。使い方がわかりづらいと住民の方からは聞いている。※組立タイプ
- ・屋外の使用（簡易テント付き）は、安定感がなかった。

携帯トイレ Q. あなたが使ったことのある携帯トイレは使いやすかったですか？



回答理由（抜粋）

（とても使いやすかった・使いやすかった）

- ・袋の付け替えが簡易だった。
- ・使い方さえマスターすれば簡単に清潔に汚物を処理することができ、排せつ行動に支障がなかったから。
- ・前使用者が使用后、袋をセットするルールを守っていれば、問題なく使用出来た。

（どちらでもない・使いにくかった）

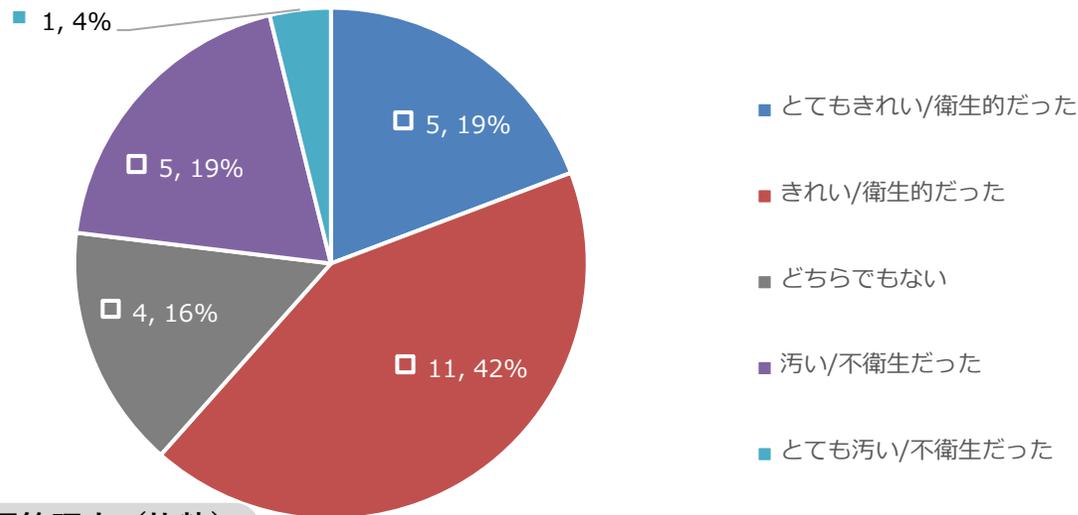
- ・そもそものトイレ環境の悪化で衛生面が気になって心理的に使いにくかった。
- ・使用の都度、袋を取り換えなければならない。袋の使い方がわかりづらいものがあった。
- ・凝固剤ですぐに固まり処分がしやすかったが、袋が大きく、頻りに利用する場合のごみ処理が面倒だと感じた。
- ・使い方は単純で分かりやすいが、メーカーによっては固まりにくいものなどもあった。

- 簡易トイレは、組みあがっているタイプ・電気や熱を用いるタイプは回答の50%以上が使いやすいと回答しているのに対し、組立タイプは30%弱に留まっている。
- 携帯トイレ（便座取り付けタイプ）は、使い方の周知や利用ルール整備が行われていれば使いやすいとされる一方、廃棄物処理や固まるまでの所要時間に関する課題もあがっている。

● アンケート結果（概略）：衛生状態

簡易トイレ

Q. あなたが利用した簡易トイレの衛生状態は保たれていましたか？
（衛生的な状態（綺麗な状態）が維持されていきましたか？）



回答理由（抜粋）

（衛生的だった）

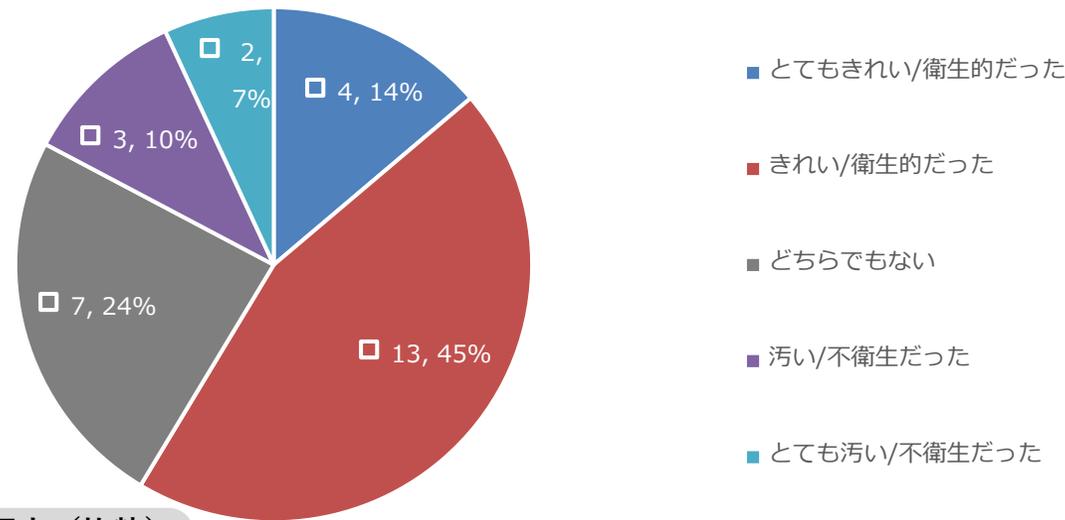
- 定期的な清掃されており、綺麗に使用できた。
- 使用者がその都度清掃していた。
- 定期的な清掃をしていたためとても清潔だった。

（どちらでもない・不衛生だった）

- 簡易トイレそのものは清潔だが、設置場所であるトイレが不衛生だった。
- 発災直後を除いてはいずれも定期的な清掃が行われ、清潔で衛生的な環境が保たれるようになっていた。発災直後は使用方法が周知されておらず、案内掲示も十分にされていなかったため使用済みのトイレトーパーが山積み放置されていたり、そもそも使用に抵抗がありトイレを我慢していたという声も聞いた。
- 時間とともに衛生状態が悪化していた。後半は外でした方がマシだった。

携帯トイレ

Q. あなたが利用した携帯トイレの衛生状態は保たれていましたか？
（衛生的な状態（綺麗な状態）が維持されていきましたか？）



回答理由（抜粋）

（衛生的だった）

- 便器回りを汚さない様にしていれば問題なし。
- 使う人全員が利用方法やルールを守っていたので。（自分が使用したあとに必ず新しい袋設置する）
- 当法人のボランティアが避難所内でトイレ講習会を開き、参加者の中から5～6名がトイレ当番として申し出てくれ、1日5回のトイレ掃除がルーティン化した。また使い方が分からない人に対してはトイレ当番がレクチャーし使用方法を浸透させたため衛生が維持できていた。

（どちらでもない・不衛生だった）

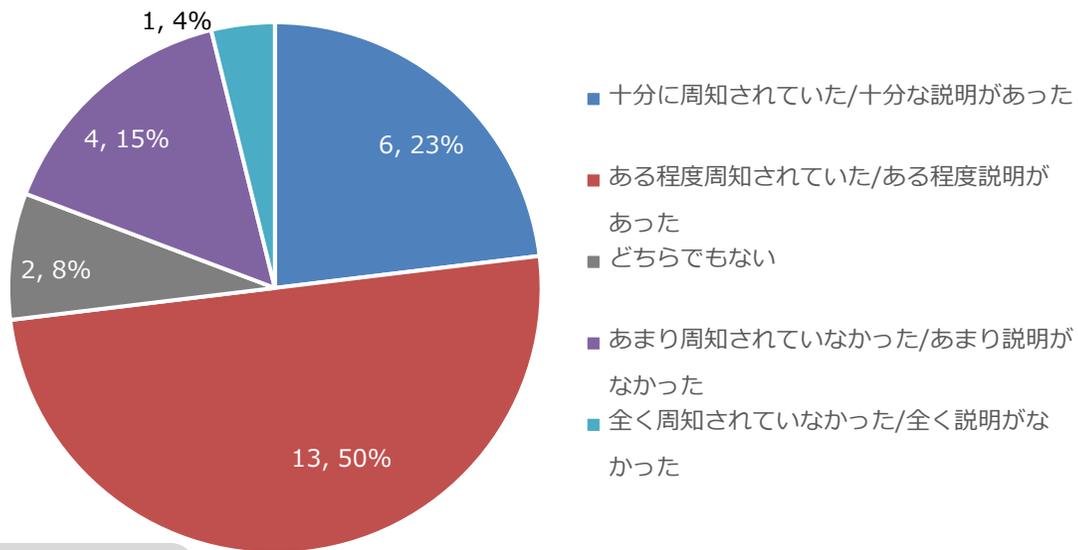
- 公衆トイレで全く清掃がなく、衛生状態の悪化によりやがて閉鎖された。
- 時間とともに衛生状態が悪化

- 定期的な清掃を通じて一定の衛生環境は保たれていた一方、時間が経過すると環境が悪化するケースや発災直後は使用方法が周知されていなかったという課題もある。
- 製品によらず衛生環境を保つためのルール作り等が起因になっていると考えられる。

● アンケート結果（概略）：利用方法の周知

簡易トイレ

Q. あなたが使ったことのある簡易トイレについて、使い方や利用方法（汚物処理等）の周知状況について教えてください



回答理由（抜粋）

（周知されていた）

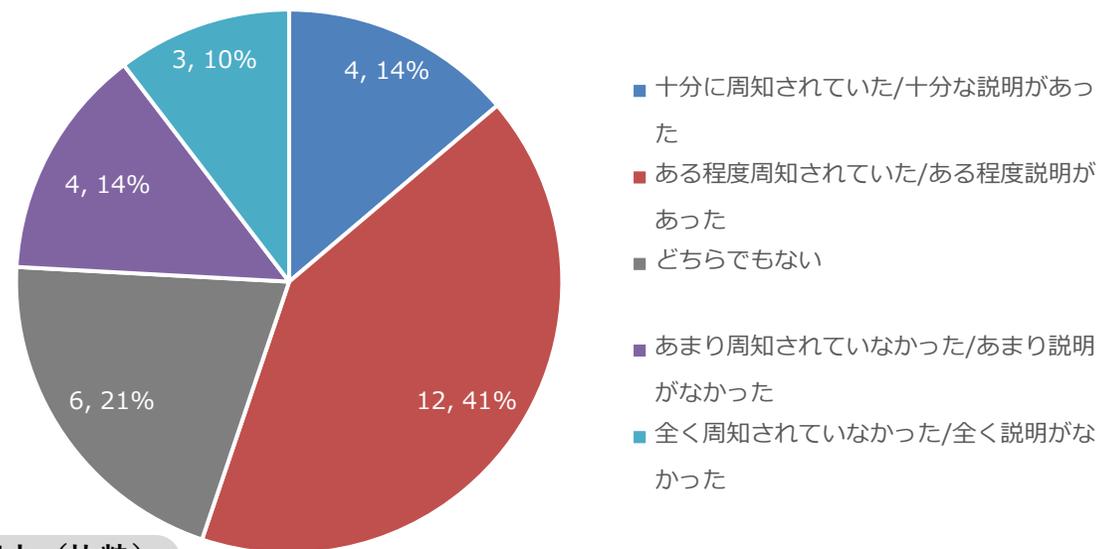
- ・ 公民館スタッフにより親切に説明がなされていた。
- ・ 説明書やマニュアルがポスターや掲示物で案内があった。利用者に説明がされていた。
- ・ 朝礼時に説明をしてポスターも掲示した

（どちらでもない・周知されていなかった）

- ・ 掲示物等はそえられており、読みながら使用される方には使用しやすいものであるといえる。一方で、使用方法がわかりづらく、間違った使用方法をしている高齢者の事例も複数対応してきた。
- ・ 使用方法は知っていたが、説明は無かった。

携帯トイレ

Q. あなたが使ったことのある携帯トイレについて、使い方や利用方法（汚物処理等）の周知状況について教えてください



回答理由（抜粋）

（周知されていた）

- ・ 使用方法の掲示物と避難所内での使用方法の説明があった。
- ・ ポスターや掲示物で案内された。
- ・ 掲示物で使い方を案内されていた。
- ・ 掲示物で使い方が貼ってあった。

（どちらでもない・周知されていなかった）

- ・ 色々なメーカーの携帯トイレがあり、メーカーにより使い方も異なったりするため、自分で事前に確認した。
- ・ 正しい使用方法を理解し、周囲に説明できるものがいなかったから。道具が不足していたから。
- ・ 製品があるだけだった。

- 簡易トイレ・携帯トイレともに、ポスター等の掲示物で周知されていたとの意見が最も多く、ボランティア団体や公民館スタッフによる説明が実施されているケースも多かった。
- 一方で、避難所によっては説明がなく、置いてある・配布されただけと言うケースもあった。

● アンケート結果：

ボランティア団体のその他のご意見や避難所で見聞きした意見等のまとめ

- 使いやすさとあわせて、衛生状態を保つことやゴミ処理の方法に関して課題感があるとのコメントも散見する。また、使用後の袋を縛る強さが個人によってばらつきがあり、それが原因となり臭いが発生したとの声もある。
- 他方、ごみ処理の問題や臭い問題はあるものの、使い方や清掃ルールの徹底を行うことで外に設置する仮設トイレ等とくらべ、比較的安かつ衛生的に使えるという声も一定数あがっている。
- また、凝固剤の適切な使用量が分からず入れすぎるケースも発生してただけでなく、複数回使用してから捨てる、凝固剤だけで固まらない場合は破いた新聞紙と一緒に入れるなど独自の利用方法で活用していたケースも複数確認。
- 加えて、備蓄量の不足、それ故に適切な利用が出来なかったという声も多くあった。
- ほか、平時の防災訓練や啓発など、利用経験を増やす取組や、現場での利用方法の説明・周知を求める声もあった。
- 女性や子供、障がい者等への配慮なども重要という意見も出ていた。

参考＜アンケート結果：その他のご意見（抜粋）＞

✓ 衛生面、製品の性能、使いやすさ

- 汚いくさいスペースで用を足すのは抵抗があります。それなら野糞の方が抵抗がないというレベル。おしりふきシートが活躍しました。ウォッシュレットがない中できれいに拭けるため。
- より衛生的に、簡易に使えるように改良は重ねて欲しい。
- 構造もメンテ性も不便。家庭のトイレに近づけて欲しい。
- 3年前に団体が主催した「防災キャンプ」で市販の組み立て型簡易トイレセットを持参して使用した時に凝固剤が全く固まらず、液体状態のし尿を持ち帰った苦い経験があったため、支援に入るときには大容量の凝固剤やペットシート、新聞紙を用意したことで比較的快適に使用できた。
- 避難所などは人の目があり、使用するのを我慢する人が特に高齢者で多かった。より使いやすいトイレやトイレ環境が整うと良い。
- 能登半島地震ではほとんどの人にとって災害用トイレの使用は初めてだったと聞いた。中でも、知的障害を持ってた子どもを持つ家庭は子どもがうまく災害用トイレを使用できないという理由で二次避難を選択したという声を多く聞いた。また、高齢者にとっても仕様が難しい状況だったと感じる。
- 使いやすさ、衛生面をもっと考えていただきたい。
- トイレという場所がない状況であること、人に話せない人もいることを想定して開発して欲しい。

✓ 備蓄、事前の備え

- 災害用トイレを全国に配備せよ
- 断水の続く中、生活が困難な人は積極的に快適な二次避難へ行くことが望ましい反面、様々な事情により被災地に残り生活を余儀なくされる場合もある。避難所の備蓄で災害用トイレは整備されているが、このような使用が困難な方へ向けた快適なものを1セット各避難所に設置してもらえれば良いと感じる。
- 携帯トイレは使用方法さえマスターすれば安全に衛生的に使えることが分かった。そのためには事前の練習、設置場所の想定、周辺機材をはじめとした道具の備蓄（便袋、凝固剤、掃除用具一式）と補充方法のルートを確立しておく必要がある。
- 防災啓発の段階で簡易トイレや携帯トイレの使い方を周知しておくことは大事だと思う。
- 学校の授業や、企業の防災訓練などでも一度使ってみるなど、非常時に慌てない対応をしておく必要があると感じます。

✓ 避難所等の運用

- 使い方や掃除のルールの周知、徹底、またそれを継続することが大切なのではないかと感じています。
- ごみ処理が非常に問題だと感じた。どうしたらもう少しごみを少なくできるかを考える必要があると感じた。
- あちらこちらのトイレが排泄物で使えない状態であり、トイレが使えなくなった発災直後から携帯トイレ等に即座に切り替える仕組み（習慣）が必要と感じた。
- 設備復旧とトイレカーなど通常のトイレのように使用できる環境の整備は不可欠。また、認知症や心身障がい者、低学年以下の子どもなどは使用困難なケースがあるので配慮や補助員が必要。トイレカーは階段があるタイプが多いため上がれず使用を断念した方も少なくなかった。
- 簡易トイレにしても仮設トイレにしても、清掃・管理者が必ず必要だと思います。

参考＜アンケート結果：その他の見聞きした声（抜粋）＞

- 階段が上がれない(足が不自由)。中で揺れる(高血圧者は辛い)。暗い。中で照明すると影が映る(プラスチックの壁)。便座が不潔。
- 幾つかの携帯トイレを利用されたが、携帯トイレにより種類があり、それにより手順が異なるので、戸惑った。(携帯トイレを設置するまでも大変だけれど、同時に始末をするのも難しかったと伺いました。もっと簡単に設置、片付けられるものがあったらいいというご意見でした。この方は視覚障がい者なので、視覚障がい者でも容易に使用できる簡易トイレを要望されていました。)
- どんな種類にしても汚物が袋に入っているため、特に子どもたちは自分の排泄物を親等に見られたくないと、トイレを我慢する子がいた。
- 凝固剤の適切な使用量が分からない(入れすぎ多数)。
- 物資不足のため、排せつ5～6回分で袋が一杯になったら捨てる方法を導入したが、特に夜中は袋の取り換えが面倒なため便器から溢れることが度々あった。前に使っていた人の汚物が見えると気分が悪い、感染症の心配もあったため住民が使用ごとに四つ折りにした新聞紙を汚物にかぶせるというアイデアを提唱。これが功を奏した。最終処理の方法が徹底されておらず、汚物の袋が一時トイレ内に山積みになっていたり、回収に来た車がパッカー車だったため破裂して汚物が周囲に飛び散るなどの事故があった。
- 使用後に袋を縛る強さが個人によってまちまちで匂いがでてしまうという苦情を伺った。
- 携帯トイレは避難所に大量備蓄しておくべきだ。取り換えなどの設置マニュアルを大きく印刷して物が必要。
- 在宅避難者が使用する凝固剤＋ポリ袋の配布が、もっと早い段階からあったらよかった。
- 10人使ってから袋を交換していた。災害時に十分な量が無いと使用を控える。回収の場所の周知が必要。
- 便座に袋の取り付けかた、凝固剤(粉)の使い方がわからない方がいた。また、凝固剤、吸水シートと色々で使い方が違い分かりにくい。
- 男性は座らなくてもできるが、女性は汚物が見えることに抵抗
- 一番大切なのは衛生面だと思うので、衛生面をもっと考えてほしい。

● アンケート結果（概略）：被災者の方から頂いたご意見

✓ 簡易トイレ※便座に取り付けるタイプ（使いやすさ、利用方法の周知、衛生状態など）

（使いやすかった、周知されていた、衛生的だった）

- 被災者に向けて説明があり、掲示物などで使用方法の説明が明示された。
- 避難所内で口頭、ポスター等で周知されていた。
- 安定感があり使い方も分かりやすかった。
- 定期的に清掃をして衛生状態が保たれていた。

✓ 携帯トイレ※便座に取り付けるタイプ（使いやすさ、利用方法の周知、衛生状態など）

（使いやすかった、周知されていた、衛生的だった）

- 携帯トイレ自体は使いやすかった。一度で覚えられたし、凝固剤（粉）はふりかけのように満遍なく広がると固まりやすかった。

（使いにくかった、周知されていなかった、衛生的でなかった）

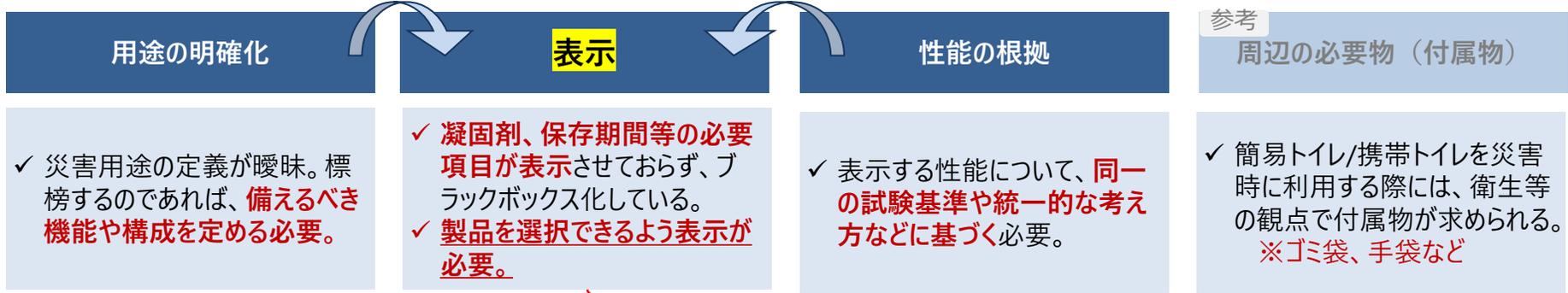
- 説明もなく置いてあるだけであった。自分たちで説明に回ったが、高齢者の一部は理解できない方たちもいた。
- 袋、凝固剤共に足りていなかったため、指示が二点三点して、被災者間でトイレの使い方が統一されにくかった。
- 凝固剤が不足していたのもあるが固まらず袋も固く縛りにくく漏れた。
- 凝固剤とビニールの使い方が分かりにくい。
- 処理、保存が大変で周りの協力がないと避難所では揉め事の種になる。

1. 災害時に活用する簡易トイレ・携帯トイレについて
2. 能登半島地震におけるトイレ確保の振り返り
3. “簡易トイレ”や“携帯トイレ”の流通製品に関する調査の報告
4. 災害時に利用した“簡易トイレ”や“携帯トイレ”に関する課題やニーズ調査の報告

5. 課題・論点

市場調査、アンケート調査、過去の災害の経験を踏まえて見えてきた課題・論点

製品について

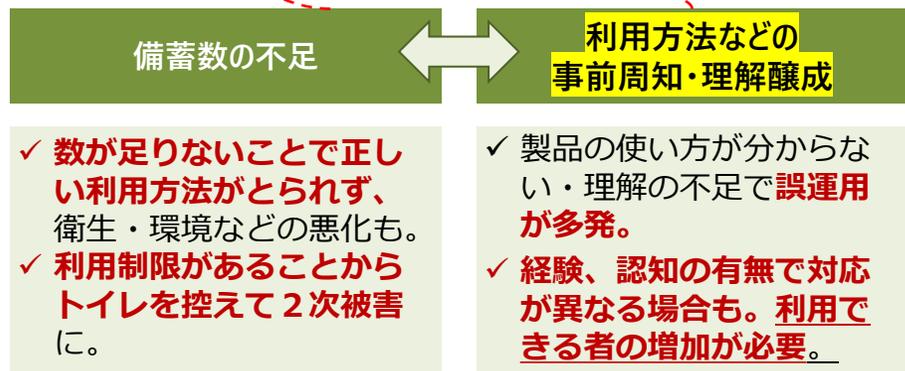


現場での利活用



事前の備えやルールの浸透が重要

事前の備え



現場の課題に繋がる